

第1回 地球のために1トン数千円から

2030年までの日本の温暖化ガス削減目標が発表されました。2013年度比26%削減です。各事業者は、さらなる自主目標を設定するなど引き続き削減努力が必要になります。しかしながら、たとえ二酸化炭素1トンでも減らすのは至難の業です。

ところで、二酸化炭素1トンを削減すると言われても、どれくらいの労力が必要かイメージできますか？

例として、農産物の配送を考えてみましょう。燃費10km/リットルのガソリン車で約431km走ると二酸化炭素が約0.1トン排出されます(※1)。二酸化炭素1トンは、おおそ生産地(岐阜県高山市)から消費地(愛知県名古屋市)の10往復の輸送にかかる二酸化炭素排出量に相当します。物流を減らすことなく、二酸化炭素1トンを減らすのは実に大変です。未来に向かって水素自動車で配送するか、あるいは昔に戻って牛や馬を使って運ぶか…。

1トンの削減でさえこんな調子ですから、これが数百トンという単位になると、気が遠くなってしまいますね。

もう少し違う観点から見てみましょう。二酸化炭素1トンは体積で考えるとちょうど25mプールと同じ大きさです。なぜなら、標準状態の気体1molの体積は22.4リットル、二酸化炭素の物質量は44なので二酸化炭素1トンの体積は509 m³となるからです。詳細は、高校の物理の教科書にお任せすることにして、25mプールを減らすのは大変そうだな、と感ずることはできますね。また、二酸化炭素1トンは40年生の人工林の杉の木、約113本が1年間に吸収する二酸化炭素量に相当します。これもまた、自社で植林をして帳尻を合わせようとするの大変そうですね(※2)。

環境取り組みに高い意識のある事業者の方からは、「わが社では省エネ投資はやりつくした、当社が自ら努力した場合、今後、二酸化炭素1トンあたり10万円以上の設備投資資金が必要だ」という声も聞きます。これに加え

て、業界としての二酸化炭素の削減目標が新たに設定されたらどうなるでしょう？自社努力だけでは資金的にも労力的にも限界だという事業者の方が出てくることも考えられます。

そこで、お勧めしたいのが、「カーボン・オフセット」です。

「カーボン・オフセット」とは、自らの努力だけではどうしても減らしきれない二酸化炭素等の温室効果ガス排出量について、資金を提供する(CO₂クレジットを購入する)ことで、埋め合わせをすることです。自社での削減の努力に加え、「カーボン・オフセット」を利用することで、場合によっては新たな設備投資よりも安価に温室効果ガス削減への貢献が可能です。

ご利用にあたっては、本業の生産部門に限らず非生産部門の事務所のための「カーボン・オフセット」など用途を限定してご利用ができます。また、環境配慮型の商品の販売やイベントの実施にあたって、そこで発生する二酸化炭素をオフセットすることも可能です。ところで気になるお値段ですが、二酸化炭素 1トンあたり数千円程度が現在の相場となっています。

毎日毎日、全てのおかずを手作りするのは手間と時間がかかって大変ですよね。そんな時には、買ったお惣菜で食卓を“埋め合わせ”することも必要ですね。

⇒中部産 CO₂クレジット 在庫量はこちら

<http://www.chubu.meti.go.jp/d34j-credit/platform.html>

(※1) 環境省 「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン(試案ver1.4)」ガソリン 2.32kg-CO₂/ℓより換算

<http://www.env.go.jp/earth/ondanka/santeiho/guide/index.html>

(※2) 林野庁 人工林データより換算

http://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/ondanka/20141113_topics2_2.html